

**立教大学学術推進特別重点資金（立教 S F R）**  
**大学院生研究**  
**2009年度研究成果報告書**

<b>研究科名</b>	立教大学大学院 異文化コミュニケーション 研究科 異文化コミュニケーション 専攻		
<b>指導教員</b>	所属・職名	氏 名	
	異文化コミュニケーション研究科 教授	鳥飼 玖美子 印	
<b>自然・人文の別</b>	人文	<b>個人・共同の別</b>	個人
<b>研究課題名</b>	国際交流プログラムを利用した国際理解教育 —アジアの高校生ネットワークの構築—		
<b>研究代表者</b>	在籍研究科・専攻・学年	氏 名	
	異文化コミュニケーション研究科 異文化コミュニケーション専攻 博士課程前期課程1年	南 美佐江 印	
<b>研究組織</b>	在籍研究科・専攻・学年	氏 名	
<b>研究期間</b>	2009年度		
<b>研究経費</b>	200 千円		

**研究の概要** (200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

アジア圏ユネスコ・スクールの高校生ネットワークを構築し、その中で ESD の理念に基づく国際会議、共同授業、交換留学、教員交換制度、などの可能性を探る。異なる文化背景を持つ高校生が実際に出会い、自分たち自身や世界が抱える問題について議論し、またその過程において互いの文化を理解し合うことで、当事者として問題意識を持ち活動できる「地球市民」を育てる教育を目指す。

本研究代表者がタイ、フィリピン、韓国の各国ユネスコ国内委員会の協力を得ながら関係を結んできた7校の教員との連携を深めながら、一つのネットワーク作りを進める。

本研究は、国内外のユネスコ・スクール活動の活性化と国際理解教育の発展に寄与するものである。

**キーワード** (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

{ 国際理解教育 } { 国際交流プログラム } { ESD }

## 研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究における国際交流活動のパートナー・スクールは以下の通り：

- ・ Busan International High School (韓国)
- ・ Daejeon Noeun High School (韓国)
- ・ Mattayom Wat Makutkasat School (タイ)
- ・ Yothin Burana School (タイ)
- ・ City College of Calapan (フィリピン)
- ・ Divine Word College of Calapan (フィリピン)
- ・ 奈良女子大学附属中等教育学校

来年度(2010年度)の高校生国際会議開催のために以下のことを行った。

1. 各校との e-mail による議論
2. カラパン市訪問
3. パートナー校との交流活動
4. パートナー校との共同授業
5. 国際会議参加生徒の指導

1. パートナー校間の e-mail による議論

昨年度パートナーシップを結んだ高校間で、来年度のカンファレンスを中心に、今後の活動について議論を重ねた。

カンファレンスについては、ユネスコ・スクールとして ESD の理念を基にテーマを提案し、テーマの具体的な扱い方について話し合った。また、そのテーマを用いて英語で共同授業を行うことも提案した。

その他、生徒の留学制度や教員交換制度、修学旅行等での相互の学校訪問の可能性についても議論を行った。具体的には、7月に釜山国際高校の生徒と教員数名が奈良女子大学附属中等教育学校を訪問し、4年生の生徒との交流活動、ホームステイが実現した。

交換留学について、韓国の2校とはほぼ同意ができていますが、他校とも今後も議論を進めていきたい。

2. カラパン市訪問 (8月23日～26日)

カラパン市の2つのパートナー校、カラパン市長を訪問、また開催場所の候補地を視察し、その後の e-mail によるパートナー校間での議論を経て、来年度のカンファレンスの概要が以下の通り決定した。

- ・ 日程： 2010年6月23日(水)～28日(月)
- ・ ホスト校： The City College of Calapan
- ・ 協力： フィリピン・ユネスコ ASPnet
- ・ 参加者： 各国より生徒6名+引率教員2名 (計 生徒24名+教員8名)
- ・ 宿泊： 教会の付属施設、ホームステイ(1日)
- ・ 交通： マニラ空港からの移動方法(チャーター・バス→高速艇)  
City College of Calapan のスタッフ2名が空港から同行
- ・ プログラム内容
  - (1) テーマ ①文化の多様性 ②子どもの権利
  - (2) プレゼンテーション
    - ① 私たちの国の中のあなたの国 (例： Korea in Japan, Japan in the Philippines など)
    - ② 私たちの学校とコミュニティー  
学校紹介と各国の文化紹介  
各国の子どもの権利に関わる問題
  - (3) ディスカッション
    - ① 私たちの文化の類似点と相違点(文化とグローバル化、文化の保護、など)
    - ② 子供の権利とは (子どもの権利を侵すもの、子どもの権利を守るためできること、など)

## 研究成果の概要 つづき

### (4) その他

パーティー（歌とダンス、フェアウェル）

ホーム・ビジット

フィールド・ワーク

### ・ 経費

パートナー校間の議論の中では、カンファランス開催校が現地での全ての経費を負担すべきとの意見も多かったが、カラパン市と学校の経済状況を考慮し、宿泊・食事代として一人あたり \$ 150 を徴収することとした。

## 問題点

- (1) 当初は、宿泊はホームステイを基本として考えていたが、ホスト校の生徒の家庭環境から、ホームステイが困難であり、宿泊施設を探す必要があった。
- (2) 当初は、各校から生徒 10 名程度の参加を考えていたが、宿泊施設やその他の理由で参加者数が制限される。
- (3) 経費負担が増え、参加不可能な学校が出る可能性がある。

## 3. パートナー校との交流活動

7月13、14日 釜山国際高校の生徒20名と教員2名が来校。生徒はホームステイしながら、学校では英語の授業やホームルームの活動に参加し、お互いの学校紹介や食文化紹介、放課後は小グループに分かれ日本生徒の案内で奈良の世界遺産ツアーを行った。

## 4. パートナー校との共同授業

カンファランスのテーマの一つである「子供の権利」について、パートナー校の英語の授業で「子供の権利条約」を教材に使い、授業の中でのディスカッションで話し合われたことを、e-mail やテレビ会議システムをつかって、生徒間、教員間での交流を行う準備を進めている。

## 5. 生徒の指導

全ての4年生を対象にした総合学習「世界学」で、多文化共生、南北問題、異文化理解をテーマにしたシュミレーション・ゲームやロール・プレイを取り入れた参加型学習を行い、国際理解の基礎となる力を養った。

全ての4年生対象の英語科授業でテーマ・ベースの授業を行っているが、そのテーマの一つとして文化多様性を取り上げ、4技能を統合した学習の中で、ESDを取り込む努力をした。

実際にフィリピン・カンファランスに参加する生徒を12月に公募し、1月下旬に選考を行った。選考方法は、応募の際の課題として日本語論文（子供の権利について）、第一次選考として筆記試験（日本文化について）、第二次選考として日本語面接、英語面接とした。

選考されたメンバー6名の活動を2月初旬から開始。週に2～3回放課後活動を行う。また春休みを利用して、フィールド・ワークを行ったり、専門家の話を聞きに行ったりして、会議のための知識を増やし、プレゼンテーションの内容を議論するとともに、英語によるディスカッションの練習も行う。

## 6. その他

現在、奈良女子大学附属中等教育学校では総合学習のカリキュラム改訂を行いつつある。パートナー校との連携も視野に入れながら、この研究の成果を生かしていきたい。